

生徒たちにおもてなしやサンドイッチを動かしてみよう
「ネット」のメンバー29日、足羽高



足羽高で「子ども食堂」

福大生ら、多文化交流も狙い

軽食提供 月2回予定

福井市の足羽高の生徒たちに無料で食事を提供する「子ども食堂」の活動を通じて、子どもたちの居場所づくりにつなげる取り組みが29日、同校で行われた。福井大などの学生でつくる多文化共生サークルのメンバーが中心となって運営。今後定期的に関催する予定で、メンバーは「アットホームな雰囲気をつくっていききたい」と意気込む。(桂知子)

この取り組みは、越前市で子ども食堂などを展開する「みんなの食堂」の発行委員会の事業。同委は小中学生への学習支援活動なども手掛けており、元々サークルの学生たちは学習支援ボランティアとして活動していた。その中で「活動に継続性を持たせたい」と福井大大学院2年の熊澤秀直

さん(23)らが中心となり、今年5月に多文化共生サークル「つながるネット」を発足させた。一方同委は、足羽高の全体の1割以上の生徒がブラジルを中心とした外国籍であることに着目。外国人と日本人の生徒との交流促進などを狙いに食事提供を企画したところ、サークル

メンバーも積極的に運営に参加した。29日には熊澤さんと現在サークル代表を務める同大4年の石原和貴さん(22)が、同委の野尻富美代表とともに教室におにぎりやサンドイッチを持ち込み、約40人の生徒に提供。生徒

は食事を楽しみながら話に花を咲かせ「いろんな人たちと話せる」と喜んでいました。今後は月2回の開催を予定。熊澤さんは「安心できる居場所になりたい」、石原さんは「地域へ貢献していきたい」と思っています。